

成果の説明書

(氏名) 鈴木 耕太郎	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育上の成果に関する事項</p> <p>・2018年度は「初年次ゼミ」(前期2クラス・後期1クラス)、「博物館概論」(前期)、「民俗学」(後期)、「地域文化論」(後期)を担当した。講義系科目となる「博物館概論」「民俗学」「地域文化論」では、毎回リアクションペーパーを記入してもらい(主に疑問点など)、次の講義冒頭でいくつかの疑問点について返答することを心掛けた(また面白い着眼点の意見や感想などもなるべく紹介した)。この取り組みについては概ね好評であり、授業評価アンケートにも「モチベーションがあがった」といった評価が寄せられている。また、「民俗学」や「地域文化論」では1回分の講義を小レポートの発表にあて、発表希望の有志を中心に発表してもらった。リアクションペーパーなどで「他の受講生の取り組みがわかり新鮮だった」といった意見が寄せられている。「博物館概論」は受講生が少数であったため、ゼミのように受講生とのやり取りで講義を進めた。その結果、授業評価アンケートも平均以上の評価を得ることができた。</p> <p>・2019年度の「演習Ⅰ」を志望してきた学生を中心に、10月から定期的にプレゼミを開催した。主に民俗学に関する文献(福田アジオ『知って役立つ民俗学』ミネルヴァ書房)やフィールドワークに関する文献(菅原和孝編『フィールドワークへの挑戦』世界思想社)の輪読をおこない、民俗学の基礎を学んだ。また2月3日に、新前橋駅から総社神社までの道のりを実際に歩き、地元・群馬の歴史および歴史的遺物、文化について巡見というかたちで学んだ。</p> <p>○職務上の成果に関する事項</p> <p>[学外業務]</p> <p>・立命館大学日本文学会 評議員</p> <p>[社会貢献活動]</p> <p>・ラジオ高崎 ラジオゼミナール出演(2018年10月19日・10月26日)</p> <p>○研究上の成果に関する事項</p> <p>【単著論文】</p> <p>・鈴木耕太郎「造り替えられる儀礼と信仰——『牛頭天王御縁起』(文明本)の信仰世界」『地域政策研究』21巻1号、2018年9月</p> <p>・鈴木耕太郎「陰陽道における牛頭天王信仰——「中世神話」としての『篋篋内伝』——」『京都民俗』36号、2018年11月(査読有)</p> <p>【学会発表】</p> <p>・鈴木耕太郎「テキストから顕れる牛頭天王——中世神話の視座から——」、2018年度日本宗教民俗学会・山岳修験学会 合同例会(日本宗教民俗学会会員として)、於：駒沢大学、2018年11月17日</p> <p>【研究会発表】</p> <p>・鈴木耕太郎「『牛頭天王御縁起』(文明本)の信仰世界」蓮花寺佛教研究所9月研究例会、2018年9月3日</p>	

・鈴木耕太郎「牛頭天王縁起読解の可能性——現世利益をもたらす牛頭天王を追って」
伝承文学研究会第 453 回東京例会、2018 年 10 月 20 日

○外部助成金

・「牛頭天王信仰の変遷と展開の検討——室町時代末期から近世期を通して」蓮花寺佛教
研究所、2017 年度仏教と社会に関する研究助成、2017 年 11 月～2019 年 11 月まで（2
年間）

・立命館大学人文学会博士論文出版助成、立命館大学人文学会、2018 年 7 月～2019 年 7
月までの間に刊行（下記参照）

2 その他の事項

現在、刊行前の編集作業中のもの、ならびに執筆中の論考類は以下の通りである。

【学術書単著】

・鈴木耕太郎『牛頭天王信仰の中世』法藏館、2019 年 5 月刊行予定（立命館大学人文学
会出版助成）……現在、初校作業済

【共編著（論考）】

京都と文学研究会 編『ものがたりたちの京都——京都文学入門——』武蔵野書院、2019
年夏頃刊行予定。……鈴木も同研究会メンバー（共編著者扱い）。担当としては『徒然
草』——「都人」兼好の足跡をたどって」と題する論考発表。現在、初校作業済

そのほか、依頼論考 3 本（うち 2 本は 2020 年内に刊行予定の学術書に収載見込、1 本は
研究所紀要）と執筆予定論考 1 本がある。

3 次年度以降の計画・抱負

教育上の成果としては、2018 年度以降、引き続いて担当する「初年次ゼミ」「博物館
概論」「民俗学」「地域文化論」の各科目について、よりバージョンアップをはかる。具
体的には講義の双方向性をさらに高め、学生とのコミュニケーションから講義が進んで
いくようなかたちにしたい。また映像資料などの効果的に用いて学生の興味関心を引き
たて、また一般論や常識の枠組みにとらわれない、先鋭的な思考力を養うために教員と
して何ができるかを模索しつづけたい。

また「演習Ⅰ」がはじまるため、ゼミ生に民俗学（ならびに近隣諸分野）の基礎を身
につけてもらうと同時に、自発的に課題を探し出し、調査・検討できるように、適宜、
アドバイスをおこないたい。

職務上の成果は、いくつかの学内委員会に所属するため、そこでできる限りのことを
おこないたい。

研究上の成果としては、まずは自身の博士論文をもとにした単著の刊行に向け、再校・
三校まで気を抜かずに校正作業を終えたい。『ものがたりたちの京都』も共編著者扱いと
なるため、同様に校正作業を終えていきたい。

また既に依頼論考が 3 本ある。いずれも文献調査にくわえ、兵庫県や広島県にある神
社などへのフィールドワークも必要となる。時間をみつけて、文献類をそろえ、フィー
ルドワークをおこなうなどしていきたい。できれば、論考にする前に学会や研究会など
でそれらの調査結果および考察を発表し、万全な状態で論考化したいと考えている。

外部の研究助成金獲得という点では、科研費の獲得（基盤 C）を目標に、精緻な研究
計画を練っていきたい。